令和7年度　都市木造建築技術実証事業　採択事業一覧

番号（都道府県順）	応募者名（建築主等）	応募事業名	実証の種類	建築用木材の主な使用方法	実証する内容	RC造、S造等他工法との比較にかかる提案	建設地	建築物概要	担当者氏名
1	一般社団法人　日本ツーバイフォー建築協会 代表理事　　野島 秀敏	木造中高層分野促進のための耐力壁設計法の開発	(1)非住宅・中高層分野の建築物における木造化・木質化に向けた取組 【技術実証】	構造体	枠組壁工法の耐力壁の設計法における使用部材や高さ関係の規定等の設計範囲を定める。厚物合板、パーティクルボード、MDF等の構造用面材が普及しているため、耐力壁の設計に利用できるよう要素試験及び耐力壁試験を行い設計法を確立する。	設計法をより安全で容易に利用できるよう基準を整備することで、設計者の多くが利用が可能となり、今後は他の工法と比較して中高層建築の木造化のメリットが大きい5階～6階建ての普及が進むと考えています。また、4階以上の構造計算がルート3とされていたが、法改正により6階までルート2で対応可能となり、構造計算も合理化が行われている。	茨城県つくば市	用途：その他（実験棟） 構造：木造 階数：6階建て 延べ面積：206.09㎡ 工事種別：新築 竣工予定：平成28年3月31日	一般社団法人　日本ツーバイフォー建築協会　技術部 坂口　晴一
2	一般社団法人　日本ツーバイフォー建築協会 代表理事　　野島 秀敏	施工性に優れた90分耐火外壁の技術開発	(1)非住宅・中高層分野の建築物における木造化・木質化に向けた取組 【技術実証】	構造体	建築物の木造化推進に伴い、構造および防耐火に関する法令の見直しが進んでいます。 法令改正により、9階以下の木造中高層建築物に告示90分耐火構造を適用する場合、下層階では被覆総厚が63mm以上の強化せっこうボード3枚張りが求められ、建設作業員の確保が難しい中、施工負荷が最大の課題となっている。そこで、コスト面や建物重量の改善も期待できる高性能な被覆仕様を開発し、強化せっこうボード2枚張りの90分大臣認定外壁、または90分大臣認定外壁の下地となる合理的な内壁仕様の性能を実証する。	2015年に当協会では、中高層建築の木造化を推進するため、枠組壁工法による6階建ての試験棟を建築しました。当初、1時間耐火が告示化されていない時期には、1時間耐火の大臣認定によって仕様が限定される外壁などの問題や、2時間耐火構造の施工性の改善が課題でした。前者は告示の制定によって改善され、後者も中高層建築における木造90分耐火の告示化により改善されましたが、前述のとおり、実用上は十分に改善されていません。現在では、木造枠組壁工法による4階建ての1時間耐火仕様の建築物が、さまざまな用途・規模で数多く施工されています。他工法との比較提案として、施工性やコスト面を重視した大臣認定を活用することで、木造中高層建築のメリットが大きい5階～6階建ての普及が進むと考えられます。	茨城県つくば市	用途：その他（実験棟） 構造：木造 階数：6階建て 延べ面積：206.09㎡ 工事種別：新築 竣工予定：平成28年3月31日	一般社団法人　日本ツーバイフォー建築協会　開発部 近藤　浩一
3	株式会社ミサワホーム総合研究所 代表取締役　千原 勝幸	木質接着複合パネルを複層して構成した高強度有開口耐力壁面の技術実証	(1)非住宅・中高層分野の建築物における木造化・木質化に向けた取組 【技術実証】	構造体	本実証では木質接着複合パネルの複層配置により高耐力・高剛性化した有開口耐力壁面の水平加力実験を実施し破壊性状、復元力特性、応力分布といった力学的性能を明らかにする。 併せて、有開口耐力壁の耐力・剛性の簡便な評価法として杉山氏らの提案したシージングエリア設計法の適用性について明らかにする。	・本実証事業を木質接着パネル構造に適用し、安全な非住宅・中高層木造建築物の提供とともに建築物によっては、耐力壁量の低減に寄与。 ・パネルが一部中空となり、この部分へ断熱材配置可能なことから、断熱層を兼ねた耐力壁、また、中空層を有することで建物の軽量化に寄与が可能と考えている。 ・木質材料の構造体利用による中高層建築物のカーボンフリー推進に寄与が可能と考える。	東京都墨田区	用途：展示場 構造：木質接着パネル工法(2~5F)、RC造(1F)　混構造 階数：5階建て 延べ面積：956.06㎡ 工事種別：新築 竣工予定：令和8年12月20日	(株)ミサワホーム総合研究所　取締役 向山　孝美
4	藤寿産業株式会社 代表取締役　西村 義一	9階建て低コスト木造オフィスビルに向けた90分耐火構造部材の技術開発、改善実証	(1)非住宅・中高層分野の建築物における木造化・木質化に向けた取組 【技術実証】	構造体	建築基準法の改正により、新たに90分、150分耐火構造部材の認定が設けられ、特に今後普及が見込まれる中高層木造に対しては、90分耐火部材の性能に即した低コスト化が期待できる。当社が所属する耐火木質ラーメン構造研究会では、耐火構造柱・梁を活用した9階建てオフィスビルについて検討を進め、R6年度の事業により90分耐火構造の合理的な断面構成について検討し、梁の1断面について性能評価試験に合格している。本事業ではこの断面構成に基づき、引き続き90分耐火構造梁の断面拡大に加えて、計画実施に必要となる90分耐火構造柱の認定取得に取り組み、低コスト木造オフィスビルを実現するための耐火構造部材の技術を確立する。	当該オフィスビルを計画している日建設計では、他工法での類似のオフィスビルの設計実績が豊富であり、本事業で実証する耐火構造部材を用いたオフィスビルと他構造で設計した場合について、構造特性、コスト、環境負荷等を評価することが可能である。本計画における日本建築センターの評定を令和7年3月に取得済みであり、今後建物の建設がなされれば、材料調達、部材供給、施工工程、工期、人工等を分析して比較検討することが可能である。	東京都千代田区	用途：事務所 構造：木造一部鉄骨造 階数：9階建て 延べ面積：5089.43㎡ 工事種別：新築 竣工予定：令和9年12月31日	藤寿産業株式会社営業部 渡邉　宏
5	株式会社類設計室 代表取締役社長　阿部 紘	大スパン無柱空間実現に向けたCLTを複合させたCLT中空床版工法の技術開発	(2)ツーバイフォー工法や木質パネル工法等の普及に向けた取組 【技術実証】	構造体	今回実証する技術開発は大スパンの空間の床版にCLTを用いることを念頭にCLTを上板・リブ・下板と箱型に構成し大スパン無柱空間を実現するボイドスラブ状の床版の開発である。現状CLTを複合させた場合の設計手法及び構造計算の基準がなく、欧州規格であるEurocode5のγメソッドに則って算出した断面性能及び剛性と実験により得た構造特性との比較を行う。	CLTを上板・リブ・下板で複合させたCLTボイドスラブは上下板を繋ぎ合わせることでCLTを構造体として面的に使用し水平力の伝達を図ることができ、鉄骨造とした場合の水平ブレース及び仕上げ等も含めた場合とのコスト比較についても検証する。	大阪府箕面市	用途：物品販売業を営む店舗、事務所 構造：鉄筋コンクリート造一部、鉄骨造・木造 階数：地上2階、地下1階 延べ面積：998.00㎡ 工事種別：新築 竣工予定：令和7年10月24日	株式会社類設計室 構造設計部 柳　周平
6	株式会社日新 代表取締役　佐藤 一郎	中大規模木造の施工性の向上に資する耐候性構造用合板の運用仕様の開発	(1)非住宅・中高層分野の建築物における木造化・木質化に向けた取組 【技術実証】	部位・部品（構造用合板）	中大規模木造の施工中の仮防水としての役割を担う、構造用合板の開発である。 昨年度は、水平構面を構成する構造用合板にウレタン塗装などの加工を施すことで仮防水として水濡れに耐えられる仕様を開発し、柱梁と一体となり施工段階で水濡れに強く、高耐力な構造部材を構成する仕組みを作った。 今年度はそれを実際に運用する際に課題となりうる、水滲み後の乾燥時間、柱・壁等の立ち上がり部分の処理方法、施工中の床に溜まった水の排水方法などについて検証する。	今回は中大規模木造建築の普及に関わる提案であるため、RC造やS造と比較して環境性能に優れた建築物を普及させることが可能である。また現在、中大規模木造建築の施工現場に置いては工事中の雨濡れを防ぐためのシート養生や撥水剤塗布による養生が必要となり、RC造やS造と比較して養生に関する多くの施工手間が発生することが課題である。今回開発する耐候性合板により、養生手間の削減、構造用合板の品質の維持の他、下階への水濡れの確率が減少し、水濡れによる石こうボード貼替が生じた場合に発生する施工手間、コスト、CO2排出量が減少すると考えられる。したがって、RC造やS造と同様の施工性を実現しつつ、木材の使用量の増加、建築物におけるCO2排出削減に貢献し、RC造やS造より高い環境性能を持つ建築を普及させる、意義のある取り組みである。	大阪府大阪市	用途：共同住宅 構造：木造 階数：8階建て 延べ面積：2220.89㎡ 工事種別：新築 竣工予定：令和6年9月6日	有限会社ビルディングランドスケープ 吉田京平